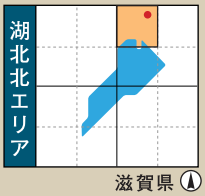
天然記念物

県指定

中河内のユキツバキとザゼンソウ群落及びその自生地

余呉町中河内他　平成12年3月10日指定



ユキツバキは、豪雪地帯に見られる高さ1～2mのツバキの仲間です。雪の重みに耐えられるよう、地面を低く這うように枝を広げます。また、ザゼンソウは、湿地性のサトイモ科の多年草で、花の形が座禅をしている達磨和尚に似ているところから「ダルマソウ」とも呼ばれています。この2種の植物は、滋賀県北部が自生の南限地であり、指定地は学術的に大変貴重な植物群落です。



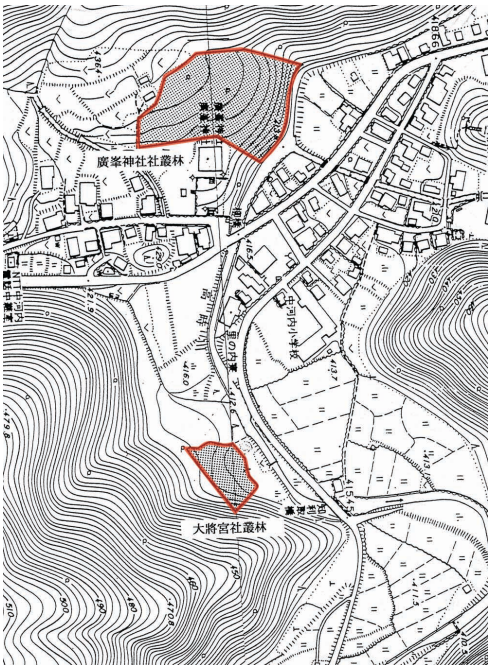
大將宮

社叢林について

ユキツバキとザゼンソウの自生地は、余呉町中河内にある廣峯神社の社叢林（しゃそうりん）と、そこから約250m東にある大將宮の社叢林です。この自生地では、神社社叢林として保護されているため、この地域本来の植生がよく残っています。

廣峯神社社叢林は、最下層の湿地部にザゼンソウの群落があって、その上にユキツバキの群落があり、さらにその上をトチなどの高木層が覆っています。大將宮社叢林は、ザゼンソウの大規模な群落の上に、ユキツバキなど低木層があり、クスやカツラ、スギなどの巨木が高木層を形成しています。

付近一帯の開発が進められてきた中にあって、どちらの社叢林とも、植生環境がほぼ自然本来の状態で残っています。このユキツバキとザゼンソウ群落は、日本海性・寒冷地性の特色を強く持つ植物群落で、滋賀県の気候、風土の多様性を植生の特徴からも考えることのできる重要なものとして、永く保存していく必要があります。



指定範囲位置図



ユキツバキ



廣峯神社叢林



ザゼンソウ

ユキツバキとザゼンソウ

ユキツバキ

ユキツバキは、主に、日本海側の北部の山地に野生する常緑低木で、滋賀県で普通に見られるヤブツバキが、上へ生長して高木となるのに対し、樹の下部から、よくしなる枝がたくさん出て横に広がり、雪が積もると重さで倒伏し、雪の中で、寒さから保護されて生育します。葉の鋸歯（きょし）が粗く、花弁はやや小さく、おしべの花糸は鮮やかな黄色をしています。

従来、滋賀県はその分布域外と考えられていましたが、最近の調査で、野坂山地、伊吹山地に自生することがわかり、滋賀県北部が分布の南限にあたることが明らかになりました。地元の人達は、中河内に通じる峠に椿坂の名を付けたように、古くからこの特異なツバキに注目していたようです。

ザゼンソウ

ザゼンソウは、暗紫褐色をしたサトイモ科特有の仏炎苞（ぶつえんほう）が、多数の花をつけた肉穂花序（にくすいかじょ）をくるむように開花します。北海道から本州北中部、中国地方の日本海側に分布、滋賀県はその分布のほぼ南限に当たります。今津町弘川に大規模な群落が知られる他は、伊吹山地や野坂山地などの山間の湿地に点在して分布しています。

関連する文化財

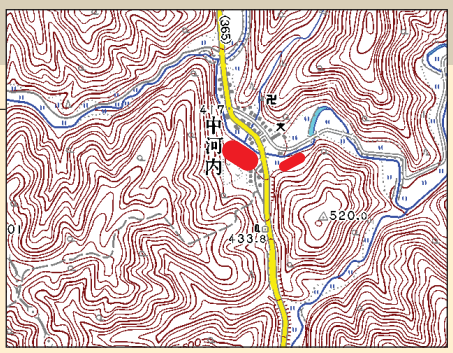
ハマナス自生南限地帯 （茨城県大野町・鳥取県鳥取市）	ハマナスの自生南限地のうち、日本海側の地域と、太平洋側の地域の2カ所が指定保護されている
ツバキ自生北限地帯 （青森県平内町・秋田県男鹿市）	ヤブツバキは、津軽海峡を超えて北には分布しない。この北限地帯のうち、青森県、秋田県各1カ所ずつが指定されている

もっと深く知りたい

余呉町教育委員会　☎0749-86-3221　余呉町中之郷958

中河内のユキツバキとザゼンソウ群落及びその自生地へのアクセス

北陸自動車道　木之本インター下車
国道365号線を今庄方面へ



【参考文献】〔植物の世界77〕朝日新聞社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月